

2:1 祭司たちよ。今、この命令があなたがたに下される。

2:2 もし、あなたがたが聞き入れず、もし、わたしの名に栄光を帰することを心に留めないなら、・・万軍の主は仰せられる。・・わたしは、あなたがたの中にのろいを送り、あなたがたへの祝福をのろいに変える。もう、それをのろいに変えている。あなたがたが、これを心に留めないからだ。

2:3 見よ。わたしは、あなたがたの子孫を責め、あなたがたの顔に糞をまき散らす。あなたがたの祭りの糞を。あなたがたはそれとともに投げ捨てられる。

2:4 このとき、あなたがたは、わたしが、レビとのわたしの契約を保つために、あなたがたにこの命令を送ったことを知ろう。・・万軍の主は仰せられる。・・

2:5 わたしの彼との契約は、いのちと平和であって、わたしは、それらに彼に与えた。それは恐れであったので、彼は、わたしを恐れ、わたしの名の前におののいた。

2:6 彼の口には真理の教えがあり、彼のくちびるには不正がなかった。平和と公正のうちに、彼はわたしとともに歩み、多くの者を罪から立ち返らせた。

2:7 祭司のくちびるは知識を守り、人々は彼の口から教えを求める。彼は万軍の主の使いであるからだ。

2:8 しかし、あなたがたは道からはずれ、多くの者を教えによってつまづかせ、レビとの契約をそこなった。・・万軍の主は仰せられる。・・

2:9 わたしもまた、あなたがたを、すべての

民にさげすまれ、軽んじられる者とする。あなたがたがわたしの道を守らず、えこひいきをして教えたからだ。」

祭司とは神と人の間にあって、人の罪を神の前においてとりなす人です。すなわち、人からのささげものによってその罪を贖い、また神からはそのみこころを人に伝えるのです。新約においては万人が祭司であり、私たちは神と人の間に立って、とりなしをし伝道をする者です。

その祭司の働きが、「あなたがたは道からはずれ、多くの者を…つまづかせ」と告発されています。教会の指導者、また新約の祭司としてのクリスチャンは、本来「口には真理…多くの者が罪から立ち返らせた」とあるような、すばらしい働き手です。

その栄誉ある働きを自分自身のものとして取り戻しましょう。またそのために一步を歩み出しましょう。「のろいに変えている」と、主から言われないうちに。また主の働きをしている人は、使命の重大さを忘れないで、そのような責任を任せられていることの光栄を感謝しましょう。またそこにある主の愛と守りを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

